

長房だより

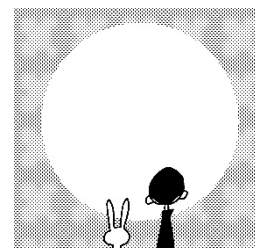
地域運営学校
令和8年10月16日
八王子市立長房中学校
【第6号】

『アウフヘーベン』しよう！

人が判断を下すとは（その1）

校長 上田 太

秋本番、いよいよ大きな行事のある10月に入りました。3年生は修学旅行、そして全校で取り組む合唱コンクールです。これらの活動にご家庭でもたくさんのバックアップをいただいていることと承知しておりますが、引き続きどうぞよろしく願いいたします。また5組では千葉への宿泊学習を大雨災害のためにやむなく中止とさせていただき、生徒たちにも残念な思いをさせていただきました。代替の宿泊先を確保し形を変えて近く実施する予定ですので詳細決定次第改めてご連絡いたします。



先日、『今を生きることは 答えなき問いを愛すること』というすてきなフレーズに出会いました（NHK 全国学校音楽コンクール 2026 中学校課題曲「花へ」詩・曲：反田恭平 より）。歌う中学生たちの姿や表情、やさしいきれいなメロディとともに私の心にしみました。

答えなき問いに対し、私たちはどう向き合っていっていいのでしょうか。

今、世の中の規範や道徳が変化しています。ネット社会化そしてAIの登場と進歩がその大きな要因です。

パラダイムシフトという言葉があります。

ベストセラーとなった「7つの習慣」の著者コビー博士は次のようなエピソードを紹介しています。

静かな地下鉄の車内に、ある駅から父親と小さな子供たちが乗り込んできました。

すると子供たちは大声で騒ぎ走り回りはじめました。

その騒ぎに、他の乗客たちは顔をしかめています。

しかし、お父さんは子どもを注意することなく目を閉じて座っています……。

コヴィー博士は、そのお父さんに近づき、精一杯穏やかに

「子供たちが騒いでいるので注意をするようにしてほしい」と伝えました。

すると、お父さんは、ハッとして目を開け、

「ああ、そうですね。どうにかしないとイケないですね…」

と大変申し訳なさそうに謝ったそうです。

そして、お父さんはこう続けました。

「すいません。ちゃんとしないとイケないのですが…今、病院の帰りなんです…

実は、1時間前に、妻が亡くなったばかりで、これからどうしたらいいのか…

あの子たちも動揺してるんでしょう…」

この言葉を聞いた瞬間、コヴィー博士は衝撃を受けました。

子供たちの様子が全く違って見え、考えも、感情も、行動も、一瞬で変化したそうです。

妻が亡くなったばかりの人のショックを考えると、不愉快だった自分の気持ちが、全く違う気持ちになったといいます。

「お気の毒に… さしつかえなければ話していただけますか？何か私にできることはありませんか？」と。

このように見方や考え方ががらりと変わってしまうことがパラダイム・シフトです。

昨今、そんなこと言うまでもない当たり前のことだろう、あるいは、「それを言っちゃあおしまいよ」（フーテンの寅さんの決まり文句）、というようなことが、憚ることなく平気で言われたりしています。世の中が明らかに変わってきているのです。世の中のパラダイム・シフトは確実に起こっています。

その中で私たちはいかに生きるべきなのか、子供たちをどのようにガイドしていったらいいのでしょうか。「不易か流行か」という見極めは大事だという前提の上で、前号で記したように大人も子供も恐れずに脱皮していく姿勢は必要です。しかしその際に今がどのような社会で、歴史の流れの中でどのように動いているかを考えられる大人でありたいものです。



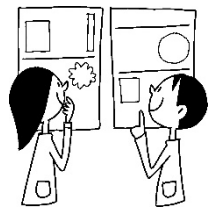
今の社会、とかく二択が多いと感じませんか？白か黒かのような。このところ特に選挙の際に目立ちます。しかしこれだけ複雑化した社会の中で、単純にどっちがいい？で決めていいものなんてほとんどないのではないのでしょうか。どちらにもそれらの目線に立って考えれば無視できない切実さがあるはずです。



教育においてもそうです。例を挙げれば、「認知能力か非認知能力か」「探求学習か暗記学習か」「生成AIを使うか使わないか」「文系か理系

か」等…。

西暦 1800 年頃、（日本では江戸時代後期、伊能忠敬が蝦夷地の測量に出発した頃であり、ヨーロッパではフランス革命後ナポレオンが力を伸ばしていた頃です）、ドイツの哲学者ヘーゲルは弁証法という考え方を打ち立てました。対立する二つのテーゼ（正と反の命題、考え）がありながら、歴史はこの二つを合わせより高い次元のテーゼ（合）に辿り着き発展してきた、というものです。このことを「アウフヘーベン」といいます。日本語では「止揚」とか「揚棄」などと訳されます。なんだかお煎餅の名前みたいです。



今私たちに必要なのは、このアウフヘーベンなのではないでしょうか。簡単なことではありません。しかし、対話を重ねてより良い結論を出していく他ないのです。二項対立で単純化された話に乗り、結果として望まなかった一方的な結論に導かれてしまうことを避けるためには、どうしても必要なプロセスなはずです。

自分と異なる意見や考えに対して、相手はなぜそのように考えるのか、その人の歩んできたストーリーを思い浮かべ、その人の目線に思いをやることで、そういう考えになるのか、ということが理解できる。同意はしなくても、少なくとも理解はできる。アウフヘーベンはそこから始まるのではないかと思います。

これは個人対個人だけではありません。平和を守るうえでも、国どうし、指導者どうしの国際交渉の際にも相手の歴史や文化の背景を知って正しく理解しておくことはとても重要です。

これからは、自分の思いや感想を述べればいいだけの時代ではありません。日頃からこのように考えることを習慣化できるようにしていくことを、学校教育の大きな使命と考えています。

※ちなみにミセスグリーンアップルの曲に「アウフヘーベン」というのがあります。

リンク <https://www.uta-net.com/song/247514/>

重苦しい歌詞が続きアウフヘーベンしないで終わってしまいましたが、歌詞の一番最後に作者である大森元貴さんの「これでいいの？」という問いが込められていると感じました。

※反田氏については先日道路交通法の速度違反で検挙されましたが、刑事罰を受け謝罪を行い一定の社会的責任をとったと判断し掲載しています。

次号では、私たちはどう向き合っていくといいのか、もう少し掘り下げて学校や教育の在り方はどうあるべきなのか、私が校長として考えていることなどをお伝えいたします。

【学校評価自由意見に対する回答】

前期学校評価アンケートへのご回答まことにありがとうございました。教職員全員で結果分析をし、自由意見を拝読しております。たくさんのお褒めや励ましのお言葉をいただき、感謝の極みです。今後の励みとなります。また、校長の体調についてご心配下さる声もいただきました。ご心配をおかけしておりますことにまずは深くお詫びいたします。同時に温かいお氣遣いに涙の出る思いでもあります。着実に快方に向かっておりますので、早い回復に努めてまいります。

数値結果として芳しくない点及び自由記述でご指摘のあった点について、回答と対策、ご理解願いたいことを下記にお示しいたしました。今後の改善に努めてまいります。

特に（１）「教員の指導態度について」、（２）「三者面談について」、（３）「学校との情報伝達について」、（４）「施設・設備について」、（５）「５組と通常級の交流・共同について」、（６）「部活動について」、（７）「ＰＴＡについて」、（８）「いじめ対応について」、（９）「学習指導と成績評価について」まとめております。

（１）「教員の指導態度について」

感情的・一方的にすぐ怒る、大声を出すなど、怖い思いや理不尽な思いをさせて申し訳ありません。該当する教員にはすぐに事実確認をし、生徒からもアンケートを実施しました。これを受け、教員本人に管理職より指導し、本人も反省の上より適切な言動をすることを約束いたしました。引き続き気になることがありましたらお知らせください。

（２）「三者面談について」

三者面談の際に、成績資料が担任に届いておらず実のある面談ができなかった、とのご意見をいただきました。せっかく時間をやりくりしてお出で下さったのに、申し訳ありませんでした。各学年とも面談前にお子さんに関する各情報を担任に集約して臨むようにしておりますが、一部の方に間に合っていない所がありました。このことについては、スケジュール上の設定の見直しも含め改善してまいります。

（３）「学校との情報伝達について」

①緊急時の情報伝達の重要性が増しています。学校としては双方向でやり取りのできるＨ＆Ｓに一本化したいのですが、そうしていない理由は２つあります。ひとつは、度重なる要請にもかかわらず登録をしていただけないご家庭があり電話連絡も難しいケースがあることです。情報が漏れなく必ず伝わることを最優先に考えておりますので、止むを得ずマチコミを併用しています。もうひとつは、Ｈ＆Ｓの情報集中時のパンク対策です。市では改善に努めてはいますが、災害時など情報集中により伝達許容量を超えとつながらなくなってしまうことがありました。そのためのフェールセーフとしてのマチコミ併用でもあります。お送りする内容の精選を心掛けてはまいります。どうかご高配いただければと存じます。なお、着信音については、鳴らない設定ができますので、別途お知らせいたします。

②欠席等のご連絡については極力返信や明日の連絡なども入れるように努めていますが、朝の限られた時間の中で十分なお返信ができないこともあります。翌日の授業や持ち物の確認については、生徒端末（クラスルーム）の活用なども含め、検討してまいります。

③また、台風や大雨をはじめ、土砂災害、暑さなどの気象現象やその他様々な災害に関して、時間変更特に登校時間や休校についての判断と連絡の早さと小学校との共通性が期待されていることも認識しております。八王子市教育委員会では市域の多様さにより、全市一斉に休校などの判断をすることをしていません。各校長の判断が基本となっています。本校学区では、例えば学校裏山の土砂崩れ、その他傾斜地の地滑り、それに伴う船田川周辺の液状化、南浅川や城山川の氾濫、通学路の水没など様々な要素を想定しながら、台風の進路や線状降水帯の発生および時間ごとの風速や降水量予測、場合によっては落雷予報など複数（少なくとも３種以上）の気象情報ツールを使いながら安全な登下校が可能か判断をしています。（教職員が安全に出勤可能かも考慮します。）ちなみに去る９月６日の大雨の際には、市内ではほとんどの学校が通常登校としていましたが、本校は船田小学校長、長房小学校長と連絡の上、上記諸条件を考慮し、通常の登校時間には雨のピークは終わっているものの学校裏山の状況と通学路の状況を確認してからの登校が適当と判断し、３校時からの授業という決定をいたしました。判断は早いに越したことはなく、ご家庭によっては仕事に影響が出ることも十分承知しておりますが、一方でほとんどの場合給食センターは学校給食提供可能な体制を整えており、キャンセル可能な時間との兼ね合いや授業時数の確保も考慮しないわけにはいきません。これら諸条件の上での判断であることをご承知いただければと存じます。ただし、常に判断の最上位にあるのは命の尊重であることは言うまでもありません。

ここで改めてお願い申し上げますが、こうした連絡が確実に届くためにも、Ｈ＆Ｓの登録がまだの方は必ず登録をお願いいたします。また、緊急連絡先の変更があった場合は、迅速に学校までご連絡をお願いいたします。ご不明の点は学校（担任又は副校長）までお問い合わせください。

(4)「施設・設備について」

教室のロッカーの容量については増やせないなので、生徒数減に伴う空きロッカーの活用を進めます。また、廊下等へのフックの設置も検討します。

築 50 年以上の校舎、校地ですので、まずは安全にかかわる部分の補修や改修を最優先しながら、学習環境の工夫と改善に努めてまいります。

(5)「5 組と通常級との交流・共同について」

インクルーシブの考え方からすれば、できるだけ一緒の場面を増やすことが望ましいと考えています。しかし、まず 5 組の生徒が落ち着いて学習・生活に取り組める環境を作ること大切にしています。これはその年により在籍する生徒の状況で大きく異なることがあることをご承知おください。そのうえで、様々な交流と共同学習の在り方を検討し、可能な限り広げてまいりたいと考えています。

(6)「部活動について」

○先生の都合が優先され、とありました。

各部の指導において、生徒ではなく教師の都合の良い指導が行なわれているとするなら、真摯に反省しなければなりません。各部顧問とよく話し合ってください。

一方、部活動がこれまで通り実施できなくなっているのは、①生徒数の減少による学校規模の縮小に伴う教職員数の減少により、開設できる部活動が減少したこと、②教育の地域への展開、③教職員の働き方改革、④過度な活動による様々な弊害、などが主な要因です。例えば以前のような各学年 6 学級程度が当たり前だった時代には、学年 10 名程度の、学校全体では 30 名前後の正規教員がいました。現在の長房中では全体で 12 名（特別支援学級も含めて 16 名）です。学校予算は基本的に生徒数に応じて配分されますから、部活動に配分できる予算も極めて少なくなっています。吹奏楽などでは新しい楽器を購入することはおろか、満足な修理すらできません。教員の人材確保も難しく、比較的時間が自由になる若い独身教員も少ないです。（若くて独身ならできるだろうというものでもありません。念のため。）

それでも、部活動が子供たちの成長に及ぼす効果・影響は大きく、私も長く部活動の顧問をしてきた経験からそのことはよく承知しています。

今、新しい形を作るうえで八王子市としても校長会としても、様々な協議と試行錯誤を重ねながら取り組んでいるところです。以前に公表したガイドラインに沿って進めていますが、スムーズには行きません。今お子様たちがある意味不利益を被っていることを大変心苦しく申し訳ないと感じています。

以下、私（校長上田）の私見を記します。

「部活動」にあたるような、これまで同様な子供たちの放課後の活動は必要だと考えます。学校の規模が大きかったころは、家にお金があろうとなかろうと、中学校の部活動に入れば、真新しいボールで思う存分練習ができた、ピカピカの楽器を手にしたりすることもできました。一人では絶対にできないような仲間とともに苦楽を共にしながら成長を実感できることができました。卒業後も、部活動の仲間同士で同窓会をする方もいらっしゃると思います。それくらいの価値がある部活動を学校から一切なくしていくことは、公教育の意義からしても違うのではないかと考えています。どうも、部活動改革というと、学校からこうした活動全てを排除していく方向で語られているような雰囲気もありますが、「〇〇市は部活動をすべて廃止した」などというニュースを聞くと、よくみると、学校単体・教員主体での部活動はなくすが、拠点を決めて複数校の生徒が集まり、指導者も地域の専門指導員と専門指導員となった教員が務めているケースが多いことが見て取れます。

今後の方向として、「効率と公正」（社会科公民的分野での重要概念です）を実現する意味でも、八王子市の場合は人・場所・設備などのリソースを集中させることが肝要と考えます。すなわち、本校の現在のサッカー部のように、各部ごとに近隣複数校の中で拠点校を決め、そこに生徒が集まる形にするのが望ましいと考えます。指導者もそこに集まります。各競技とも、もはや一つの学校の生徒だけで団体戦のチームを組むことが困難になっています。各競技団体でも合同チーム・複数在籍校の生徒によるチームとしての大会出場が可能となりつつあります。どうしても移動の面倒さがありますが、自転車使用を可とすることで放課後短時間で安全に移動できることを目指します。まずは土休日の活動から試行できればと考えています。

(7)「PTAについて」

子育てをしながら（まして仕事をしながら）PTA活動に従事することの負担感がよく理解できます。そもそもPTA活動というのはボランティアの意識から生まれたものです。自己の生活をすり減らして行う活動はボランティアの精神とは相いれません。では、どうしたらいいのでしょうか。全員一律負担の原則を変えていく他ありません。そうしなければだれもやる人がいないのなら、それまでです。近頃のPTA改革

の事例では、「やれることをやれる人で」が一般的になっています。

しかし同時に、学校の保護者の組織としてのPTAの力はとても大きなものがあるということを見逃してはならないと思います。市の教育施策でも、PTA联合会からの要望で実現しているものが多数あります。例えば前述の部活動改革のことなど、学校単体ではどうにもならないことについては、保護者の組織の力が大切です。負担感だけの問題ではなく、保護者として行政に働きかける大きな手立てとしてのPTAの活用もご考慮いただけると幸いです。

(8)「いじめについて」

学校のいじめ対策について、お子様から聞く状況に対して、学校がどのような対応をしているかについては、なかなか見えづらいことがあるのだと拝察します。今回ご指摘いただいていると思われる件については、個別のプライバシーに関わることなので、明らかにできませんが、学校としていじめ認知をして、ご本人や保護者の方と話し合い、市教委にも届け出て学校の「いじめ防止基本方針」および「いじめ防止対策推進法」など法令に則った対応をしています。今後も気になることがあれば、すぐにお知らせください。

(9)「学習指導と成績評価について」

①学習指導の工夫と改善について

特にICTの利活用についても含め指導改善の工夫についてご意見をいただきました。ご指摘いただいたように、小学校との活用状況の差があることも認識しております。紙と鉛筆をフル活用した学習指導とICTにいわば丸投げした学習指導の差など、ここきてICTの効果的な活用と不適切な活用について世界的にも話題となっております。先日「小中一貫教育の日」に学区小学校と本校の教員が集まり、ICTの活用法も含めた学習指導法についての研修会を分科会形式で行いました。良いところを積極的に取り入れてまいります。急速に利用が拡大してきたAIの導入についても議論となっております。現在の大きな転換期の中で、最も効果的な指導法を常に学び研究し試行錯誤しながら取り組んでいく所存です。

②提出物の評価が厳しすぎる、きちんと見ていないのではないか、フィードバックがない。

これらについては、各教科担当一同、頂いたご意見を真摯に受け止め、提出物への見直し、フィードバックに努めるなど改善に努めてまいります。

③透明性がない、これが一向に改善されない。多くの方が言っているように不信感しかない。

これまで個別にお答えしてまいりましたが、「多くの方」と書かれているので、多くの方にご覧いただけるようこちらで回答させていただきます。

受験期なので怖くてものが言えない、誤りを認めずに正当化、不信感しかない、と言い切ってしまうと残念で申し訳なく身も蓋もありません。しかし本来学校と家庭は「相互的で互恵的で民主的な関係」^(※)でありたいものだと考えています。その土台は信頼感ですから、不信感しかない状況は何とかしたいと思い、理由を説明させていただきます。簡単ではありませんので、少々長くなることをご容赦ください。

本校でお伝えしている評価・評定が、どのような材料を元に決定されているのかが分からないので今まで何度も改善を求めてきたが、一向に変わらないことに対する不信感を強く抱かれていらっしゃるのご意見と受け止めました。中学校の評価・評定が高校入試の際の得点計算に影響するというのも大きな理由かと思えます。

年齢が40代以上の方は、中学校の評価と言え、5段階の相対評価（集団に準拠した評価）でした。各教科4つ（国語のみ5つ）の観点の評価から総合的に評定として表すことは今と同じでしたが、定期考査の得点の割合が非常に高く、多くの生徒も保護者もそのようなものだとして認識してきました。観点ごとの内容を詳しく問う声はあまりありませんでした。そもそもが相対評価ですから、5・4・3・2・1の評定はそれぞれの割合に応じたものであり、簡単に言うならその学年内での順位だとも言えるものでした。

しかし、平成14(2002)年度の学習指導要領の改訂により、子どもたちの学力をもっと丁寧に見て評価し過度な競争をやわらげていこうということになり、観点ごとの絶対評価（目標に準拠した評価）に厳格に対応した評定に変わりました。

2,3年生の方は今年2,3月の学校だよりでこのあたりのことを詳しくご説明しておりますので、ご一読いただけているかとは思いますが、当然本校でもこの学習指導要領に即して学習指導と評価を行っています。学習指導要領というのは文部科学省が学校教育の規準として学校教育法を根拠に作成されているものですから、言い換えると本校の評価評定法は何ら法に反するものではありません。さらに、その前提の上で、指導要領には評価評定は最終的には各学校の判断で出すことも示されていますから、本校で定めた評価と評定のやり方は、たとえ仮に特徴的であったとしても、そこまで責めを負うものではないということをまず前提としてお伝えさせていただきます。

そうはいても、

「入試の得点とは違い、学校での内申点はその学期ごとの学習の到達状況を総合的に表している。それらは

何によって判断されるのかということが分からない。」という趣旨だと思います。

本校では評価判断する評価材は、これまでも年度初めに主なものを示しています。

そのどれが具体的にどういう事柄で何点満点で、何点ならどういう評価になるのか、をすべてお示しすることが「透明化」ということでしょうか。ところがこれはなかなか難しいことなのです。

例を挙げてご説明いたします。国語の「知識・技能」であれば、1回10点満点の漢字テストを毎授業で合計30回行い、その合計を百分率で表し、文法の小テストで行った得点も百分率で表し、定期考査の「知識・技能」として出題した問題の得点も百分率で表し、硬筆や毛筆の授業での作品点を百分率で表し、それらすべてを総合します。しかし仮に何回かの漢字テストを終えて全体的に得点が低かった場合、教師はまず、なぜ低いのか考えます。自らの指導に課題があると判断できるなら、そのテストの得点を機械的にそのまま百分率に反映することはすべきではありません。別のご意見であった、クラスによって大きな違いが出ている場合についても同じです。テストとは生徒の学習状況を評価するためであると同時に、教師の指導を評価するものでもあるからです。よって指導を改善した後の小テストの点数をより重視することもあり得ます。また、漢字テストが30回、文法テストが10回だった場合、そのまま「小テスト40回の合計」とすべきでないことは言うまでもありません。ところが透明性や説明責任が強く求められるとして、これを単純に小テスト40回の合計で何点、とした方が説明しやすいのでそのような「透明だけれど偏った評価」を行ってしまいがちなのです。

定期テストにしても、私は同じ力を測るものなら本質的には毎回同じ問題で構わないとさえ考えています。しかし、学校の定期考査も高等学校への内申点に反映とするとあって、塾によっては〇〇中学校の▽▽先生の過去問題はこれ、と対策をされていることもあり、こうした情報差による不公平が出ないように問題を変えて出題しています。ある程度仕方ないことと思いますが、本質的には良いことと考えていません。過去問をやるというのは正当な受験対策だと思いますが、試験に対するテクニックや学習法の一つであって、学習の本質ではないと思うからです。それはさておき、毎回問が異なるわけですから、仮に同じ生徒が前回と今回のテストを受けたとしても結果も異なってきます。作問の精度が上がり、何度作問してもだいたい同じ難易度で作問できればいいのですが、これは簡単なことではありません。(ちなみに各都道府県の高入試の問題は多少の違いはあれど、ほぼ1年間、相当の日数・時数と人員をあてがって厳しい検討を経て作成されています。)これは英検や漢検も、毎回合格点が変わることからもお解りかと思います。

テストの点数をそのまま評価の百分率に反映させてしまうと、場合によっては難易度の高い低いにかかわらず、テストの得点がそのまま評価に反映することになりかねません。(本来評価Aのはずの子が、やたら難しすぎる問題のために得点が取れず評価Bになってしまうなど。)

こういった、「評価のぶれ」を防ぐために、評価材の間で調整を行うことがあるわけです。どの評価材のウエイトを高めてどこを低めにするか、この作業は教師の指導を振り返り改善していくためと、生徒に適正な評価を行うために必要なのです。

以上の理由から、指導の当初に、各観点の最終評価までを完全に透明化することはできません。

もちろん、あらかじめいつ、どんなテストを行い、どんな分野(漢字・文法・作文…)でそれぞれの総合計は何点、それぞれの分野ごとに百分率化し、これに定期考査のその観点の問題の得点を百分率化して加え、調整のうえで評価する、というところまで示すことはできるはずですが、こうした形で他の2観点も同じように示し、合わせて年度当初に説明できることが理想ではありますが、透明性と言ってもここまでです。

ところが、現実の教員の勤務の中で、そこまでの年間の教材研究を行い、年度当初に示すことは相当に困難であるのが現状です。理想の実現に向けて、教材研究を積み重ねていくわけですが、現状では評価材が何なのかをお示しすることが精いっぱいです。

言い訳をして、現状で良いと考えているわけでは決してありません。本校のみならずすべての公立中学校において改善すべきことは山ほどあることは承知しております。しかし、本校がお子様の学習をいい加減に判断して評価をつけているということではなく、制度自体のはらんでいる課題であるということをご理解いただきたく、長い説明をさせていただきました。

(※) 教育哲学者ガード・ビースタの言葉より引用

本物に触れた修学旅行

3学年修学旅行担当

「大成功！」今回の修学旅行を表す言葉です。大きなトラブルなく、体調不良もなく、すべての行程を終えることができました。まずは、生徒たちに拍手を送りたいと思います！よく頑張りました。

10月11日（日）まだ朝冷えの残る6時30分。西八王子駅には続々と3年生が集まっています。全班が集合時間通りにチェックを終え、新横浜駅に向かって出発することができました。実は、2年生で行った鎌倉校外学習では、帰りの電車に多くの班が間に合わず、今回の修学旅行への課題となっていました。まずは、全班が無事に出発できて一安心です。新横浜駅から京都駅までの新幹線の車内は座席を回して向かい合ったり、横並び3人でカードゲームをしたり、和気あいあいとした雰囲気でも過ごすことができました。

初日のメインは奈良県での研修です。法隆寺をガイドさんの案内でクラスごとに見学し、奈良公園では班行動しました。初めての野生の鹿が印象的だった生徒が多かったようです。興福寺国宝館の夜間特別拝観では、貸し切りで静寂の中を一切の私語なく、ガイドさんの話に真剣に耳を傾けながら学びを深めている姿が印象的でした。

2日目は朝の東大寺から始まりました。日中とは違い、他の観光客もほとんどいない中で「本物」との出会いは生徒達の心にどのように響いたのでしょうか。建物自体の大きさや、大仏の悠然とした佇まいに圧倒されていたようです。その後、班行動で京都駅まで移動し、現地ガイドの方と1日京都市内を巡りました。1日中歩いてクタクタになり、夕飯はかつてないほどにぎやかに、そして男女共におかわりの嵐でした。添乗員さんや看護師さんも驚いていました。夜は実行委員が準備していたレクリエーションで盛り上がり、予定の時間を延長するほど楽しみました。

最終日はタクシーでの班行動です。朝は西本願寺でクラス写真を撮り、タクシーに乗り込んで、昨日は行けなかった場所に見学に行きました。運転手さんと仲良くなり、おすすめの昼食場所に連れて行ってもらい、一緒にお土産を選んでいる班もありました。

3日間を通して、添乗員さんや引率して下さった校外の方々は、「こんなにトラブルもなく、体調不良もなかった修学旅行は初めてです。」と驚くとともに、「素晴らしい生徒さんたちでした」と褒めてくださいました。自分たちで評価するだけでなく、外部の人から良い評価を受けられるというのは、3年生が日ごろから培ってきたものが正しく表現できているのだとうれしく思いました。

合唱コンクールや個人の進路決定など、様々な行事がありますが、卒業まで残りもあとわずかとなりました。この3年生が長房中学校に残せるものをしっかりと後輩へ継承し、修学旅行で築き上げたチームワークで乗り切っていきましょう。



合唱コンクール

今年度の合唱コンクールは、いちようホールで行います。

日時：令和8年10月29日（木）

場所：八王子市芸術文化会館 いちようホール
(八王子市本町24-1)

<開会式> 10:45～
<1年生の部> 11:00～
<2年生の部> 11:40～
<昼食>
<3年生の部> 13:15～
<吹奏楽部> 14:05～
<閉会式> 14:25～



生徒会後期役員決定

9月9日（水）に生徒会役員選挙立会演説会が行われ、新しい役員が決定しました。

会長：〇〇 〇〇さん（2年）
役員：〇〇 〇〇さん（2年）、
〇〇 〇〇さん（2年）、〇〇 〇〇さん（1年）、
〇〇 〇〇さん（1年）

前会長の3年〇〇〇〇さんを中心とした、
前期生徒会から引き継いで、長房中をよりよく
するために頑張ってください。



令和8年度 長房地区青少年健全育成キャンペーン標語 入選作品

【入選】

伝えよう 声にだして 感謝の気持ち 1年1組 〇〇 〇〇
画面ごし 相手の表情 考えて 2年2組 〇〇 〇〇
書きこんだ 悪口ずっと 消えないね 3年1組 〇〇 〇〇

たくさんの標語をありがとうございました！
参加賞は消しゴムです。

【佳作】

伝えよう 魔法の言葉 ありがとう 1年2組 〇〇 〇〇
思いやり 笑顔の花を咲かせよう 2年1組 〇〇 〇〇
メッセージ 送信前に パトロール 3年2組 〇〇 〇〇

美術部

美術部では合唱コンクール当日
に舞台に揚げるスローガンの制作
をしています。横幅9mの大きな
スローガンを協力して制作してい
ますので、ぜひ当日の仕上がりを
楽しみにして下さい。



水泳部

第74回東京都中学校

学年別水泳競技大会

男子100m背泳ぎ

第3位 〇〇 〇〇

(1:10.49)



地域美化にご協力を

八王子市青少年育成環境一斉クリーン活動

《ご案内》

令和8年11月7日（土）

【時間・場所】

◆10:00 地域ごとに集合（下記で一番近い所にお出かけ下さい）

・人形塚公園 ・長房中学校前
・長房郵便局前 ・城山手陵東公園入口（こぶし公園側）

※ 各集合場所には、育成指導員がいます。ゴミ袋、軍手を受け取り、

清掃活動を行ってください。（各集合場所から中学校までの間）

【回収するゴミ ⇒ びん・缶・ペットボトル・紙くず・吸い殻の5種類】

【終了時間・場所】◆ 11:00 長房中学校北側校舎前集合 ⇒ ごみの回収をします

※ 感染症流行の状況などの特別な事由により、中止となる場合があります

※雨天中止とします

主催 青少年対策長房地委委員会

学校賞

八王子市立長房中学校

佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	入選	入選	入選	入選	入選	入選
ソード水海の青へとすき通る	おにぎりを口いっぱい山笑う	朝採れた菜の花浸す祖母の家	おかえりの声に重なる風鈴よ	母の背を越して寂しき柏餅	おさがりの推理小説風薫る	風薫る軽めのギアでペダルこぐ	イヤホンの音量上げて青時雨	菜の花を何度も探すかくれんぼ	縁側にグラスのあとや風薫る	菜の花やチャイム重なる帰り道	菜の花や戦争語る変電所	風薫る白いページをめくる音		
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

俳人協会 第六十五回全国俳句大会「ジュニアの部」
全国から中学生6493句が寄せられました

はちやめちやハロウィン大冒険

10月31日（土）

詳細はポスターをご覧ください。

